2P）　外観。東側接道より眺める。左官屋オリジナルの掻き落とし壁と、1階と2階の目隠し壁のバランスで外観を構成した。1階の目隠し壁の内部にはバイクや自転車置き場を設け、スペースを無駄なく機能的に使う工夫がされている。

3P右）　玄関内部。1帖程の土間収納に加えて飾り棚を設けた玄関収納を配置。収納量を確保して色々な物が使いたい場所に収納できるように検討した。

3P左）　階段から見上げる吹抜け空間。2階のハイサイド窓から一日中光が差し込み、広間を明るくしてくれる。吹抜けを通じて風の通り道が出来、ダイニングテーブルに座っていると家の中を空気がゆっくりと動いているのが感じられる。

木の家に暮らすと楽しみが変わる

完成現場報告
静岡市／『愉楽の家』

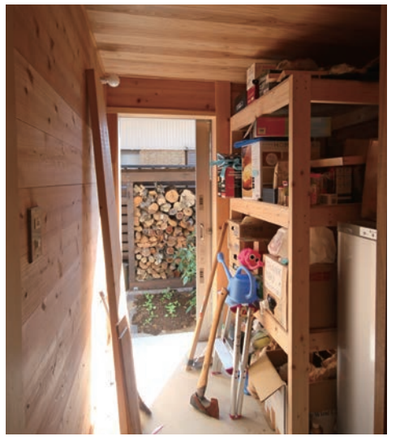
文・写真／ココラボ　山﨑健治

毎年この時期になると一年の経過の早さに驚きます。日々の仕事の中でも打ち合わせや現場の様子で季節を感じ、ポカポカと暖かい日差しの中での敷地調査や、炎天下の中で汗をかいた建前などを思い浮かべます。今年、特に印象に残っているのは秋晴れの青い空。澄み渡った青空はとても綺麗で、木の家がよりいっそう浮かびあがって見えていました。そんな秋晴れの中、今回ご紹介する『愉楽の家』の写真撮影にお伺いしてきました。昨年の8月に完成し、まだ一年生の木の家ですが、床や天井などの木の色がほんのりと変化し、明るい色合いの中にも落ち着きのある雰囲気が感じられ、完成時とはまた違った印象の木の家に変化していました。家の完成と共に新しい家族が増えたYさんご家族。家の変化と合わせて家族の暮らし方も徐々に変化してきたと話してくれました。庭の一部につくった菜園の手入れや薪ストーブ用の薪集めの様子、ご主人の日曜大工も増え、作品も大型になってきているようです。今回の通信では、変化した暮らしを楽しむ家族についてご紹介したいと思います。

実用性と遊びを兼ね備えた全体計画

『愉楽の家』の建つ敷地は静岡市の中でも市街地に位置し、住宅や商業施設、総合病院などが立ち並ぶ地域の中にあります。元々病院関係者の駐車場として利用されていた土地でしたが、ご主人の実家も近く、利便性も良いことからこの場所での家づくりを計画しました。敷地は整った矩形でしたが、ややコンパクトな大きさで、真南が少し西向きに振った方位でした。南・西・北にはすでに住宅が建ち並び、限られた条件の中での計画となりましたが、採光や通風の計画を立てながら生活の動線を組み込み、実用性と遊び心のあるプランを考えていきました。Yさんからの要望は、明るく子供たちが伸び伸びと暮らせるスペースと場所に合わせた収納スペースをつくる事。そして奥様は菜園、ご主人は薪ストーブを楽しむ暮らしを希望していました。

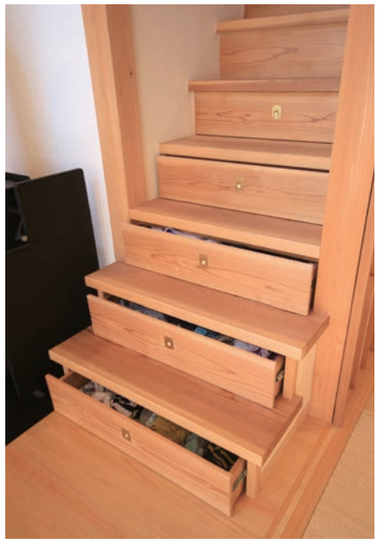
キッチンと勝手口の間に１坪のキッチン納戸を設けた。家事動線上にある収納は使い勝手もよく、効率よく家事を進める事ができると奥様に好評。



キッチン納戸にあるご主人製作の棚板。勝手口付近には菜園があるため、収穫の野菜や畑仕事に使う道具などもここに置かれて便利に使っている。

上）　広間側から見たキッチンまわりの収納。キッチンまわりと合わせて色々な収納スペースを設けた。電話やプリンターなどもサイズを測って置き場所を決め、設計段階で検討している。

下）　キッチンまわりは、特に収納について考えて計画し、余裕のある大きさで製作した。今はまだ子供中心の生活のため、キッチン用品と言うよりは子供たちの収納として使われているが、これからの生活の変化に対応できるようにサイズや使い勝手を検討した。



上）　３枚のＬ型障子に囲まれた4.5帖の和室。東の壁一面には上下に分けた収納を設け、子供たちのおもちゃなどもここに収納されている。和室は広間の北側に配置され、障子を閉めると落ち着いた空間になり、広間とは違った雰囲気が感じられる。

左上）　２階寝室に設置された箱階段。ロフトへの物の出し入れのために階段を設け、その中を規則的なマス目に区切り本棚として利用いている。

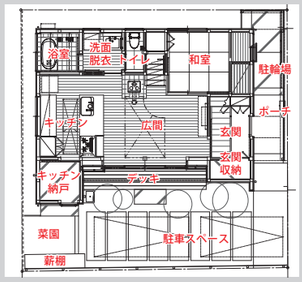
左下）　１階階段の下段に設けた引き出し収納。ちょっとした隙間空間も有効に活用することで、意外と収納量を確保することができる。

場所に合わせた収納計画

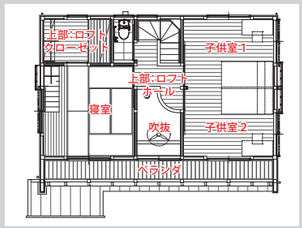
コンパクトにつくられたお宅ですが、様々な場所に少し大きめの収納を設けています。玄関には下駄箱に加えて1帖の土間収納を設置。非常時のストックや子供たちとの遊び道具が収納されています。和室にも壁一面の収納を設けました。来客時の寝具をはじめ、子供たちのおもちゃも収納しています。また、広間の中心にある階段は、その形を利用してタンスのように使える引き出しをつくり、小さな空間も逃さず有効的な収納に使いました。奥行きは場所によって違い様々ですが、子供たちにも使いやすい高さのため、子供用の衣類収納として利用しています。そして、2階の和室に設けた箱階段。ロフトに上がる階段を箱状につくり本棚として利用しました。どれもひと工夫のアイデア収納ですが、片付ける場所が手近にあり、部屋も片付くと好評です。

もっとも時間をかけて考えたのはキッチンまわりの収納計画。道具の収納場所やサイズ、扉の開閉などについても細かく話し合いました。キッチンには食器やグラス以外にも、色々なものが集まってくると考え、少しゆとりのある収納場所をつくりました。使う用途は子供の成長に合わせて変化すると思いますが、絵本や文房具、学校の書類などを収納する場所も考えて計画しました。『愉楽の家』の収納場所の中で特徴的なのが、キッチンと勝手口の間に設けた1坪サイズのキッチン納戸。ご主人お手製の棚板を入れて生活のゴタゴタを上手に収納してありました。勝手口はそのまま菜園に続いているため、収穫した野菜もそのままキッチンへ。最短動線で家事と趣味を楽しむ事が出来、奥様お気に入りの空間になりました。

明るく風通しの良い住まいというのは家の基本で、どんな家でも満たしたい条件ですが、Yさんの敷地は三方に家が建ち並び方位も振れているので少し難しく、家の中心に採光と通風のための吹き抜けを設ける事で解決していきました。吹き抜けは薪ストーブの暖房面でも効果的で、暖められた空気は1階だけでなく2階まで広がり、効率よく家全体を暖めてくれます。さらに、吹き抜けを通じて上昇気流が起こり、1階から2階、そしてロフトの窓へ抜ける風の通り道が出来ました。1階には広間と和室、水廻りを設け、2階に寝室と子供室を設けたスタンダードな間取りですが、スペースの区切りを無くしたため、伸び伸びとした印象のお宅になりました。また、子供室の上部には煙突掃除のために屋根に出入りするロフトを設け、子供たちにとってはちょっとした隠し部屋のような遊び心のある空間も出来上がりました。



1F平面図・敷地図



2F・平面図

仕様内容

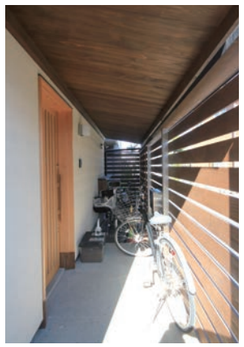
	家族構成	家族5人
	敷地面積	125.53㎡
	建築面積	59.62㎡
	延べ床面積	101.55㎡
	構法	在来工法
外部仕上	屋根	ガルバリウム鋼板タテハゼ葺き
	外壁	マサ土掻き落し仕上げ、 ガルバリウム鋼板角波タテ貼
	外部建具	木製オリジナル建具　桧、ナラ、ヒバ ペアガラス アルミサッシ(ペアガラス)
内部仕上	天井仕上	杉板本実張り　厚12㎜
	壁	漆喰コテ押え、クロス貼り
	床	杉本実板　厚15㎜
	内部建具	オリジナル木製建具
設備	キッチン	オリジナルキッチン
	洗面化粧台	オリジナル化粧台
	浴室	壁:200角タイル貼り 天井:青森ヒバFJ本実板 厚15㎜
	薪ストーブ	ケンズメタルワーク　触媒式
	設計者	山﨑健治
	施工	有限会社こころ木造建築研究所
	竣工	平成26年8月

洗面化粧台と洗濯機の間にロールスクリーンを設け、脱衣と洗面が同時に使える工夫をした。そのままだと閉めた時に隙間が生じたりバタつきがあるため、壁に溝をつくってレールを設け、ストレス無く使用できるつくりとした。

上右） 庭の一角に設けた菜園と薪棚。菜園は１坪程の小さな大きさだが、思ったより収穫量があると話してくれた。薪棚はご主人が製作。菜園とあわせていい雰囲気が出ている。

上左） ケンズメタルワークさん製作の触媒式の薪ストーブ。燃焼効率を高めるために触媒を設置し、なるべく煙が出にくい構造を考えてくれた。炉の内部が広いので、クッキングストーブとしても使える優れもの。

２階子供室に配置された、ご主人製作の二段ベッド。練習のために設けた鉄棒がなんともいえないアイデアで、子供たちの喜ぶ顔が目に浮かぶ。



道路に面した玄関側に目隠しのための板塀を設けた。その内側を自転車置き場として利用するために、建物一面に屋根を設けた。通常は通路としての役割しかないが、塀や屋根を設ける事でとても便利な空間が出来、特に雨の日に役立っている。

木の家を通して見えてくるもの

完成して一年と数ヶ月。アパートでの暮らしから木の家暮らしへと生活が変わり、毎日の暮らし方や時間の使い方も様々な変化があったとお話を聞きました。以前の暮らしの中でも工夫をして自然との触れ合いを楽しんでいたYさんご家族ですが、木の家に暮らしてますますその魅力にはまり、ご主人は自宅で木工を楽しんでいるそうです。小さな木工からはじまり、だんだんと作品が大型化し、キッチン納戸の棚や子供たちの二段ベットもつくり上げてしまいました。ベットにはお子さんの練習用の鉄棒が取り付けられ、不思議な組み合わせになっていましたが、Yさんがものづくりを楽しんでいる様子が目に浮かんできました。奥様は庭の一部につくった菜園にはまり、一年を通して色々な野菜を育てているようです。小さな菜園でも収穫量は多く、『坪菜園』と名付けて野菜の成長を日々楽しみにしていると話してくれました。そして、家族みんなが楽しみにしていた薪ストーブは、昨シーズン順調に活躍し、家中を暖めてくれると評判です。市街地で薪ストーブを使う事に悩んでいたYさんは、経験者に話を聞きに行ったり燃焼効率の高い薪ストーブを調べたりと勉強し、最終的にはケンズメタルワークの高橋さんにお願いして触媒式の薪ストーブを製作してもらいました。初めての製品という事で試行錯誤があったようですが、今後の試作を兼ねてデータを取り、完成度の高い薪ストーブが出来たと喜んでくれました。

薪ストーブを使う暮らしになり一番大変なのは薪づくりですが、ご実家のお父さんが一緒に薪づくりをしてくれると聞きました。親と子の男同士の付き合いはなかなか難しいものだと思いますが、お子さんを交えて一緒に薪づくりをするようになり、自然と実家と交流する時間も増えたと奥様が喜んでいました。

木の家に暮らすことで毎日が変わるのではなく、木の家づくりなどを通して自然とものの見方が変わり、暮らしが変わっていくのだと思います。ものづくりの楽しさや大切さを感じ、また自然素材の優しさやありがたさを知ります。そして、それらを中心とした暮らしが心地よく、心を満たしてくれる暮らしへと変わっていくのだと思います。Yさんの木の家暮らしはまだまだ始まったばかりです。今後も子供たちの成長に合わせて暮らしも変わっていくと思いますが、きっと充実した毎日を過ごしていく事だと思います。この木の家の成長と共に見守っていきたいと思います。